

建築教育ニュース

1975, 10

東日本建築教育研究会

建築教育ニュース

1975, 10.

		頁
1	会長あいさつ..... 池田 寿 男.....	1
2	愛知県における土木・建築科の一括募集について..... 杉 田 博.....	2
3	昭和49年度、行事および会計(決算)..... 事 務 局.....	6
4	昭和50年度、行事および会計(予算)..... 事 務 局.....	9
5	昭和50年度、総会記録..... 事 務 局.....	10
6	施工分科会報告..... 山 室 滋.....	12
7	計画分科会報告..... 佐 藤 賢 吉.....	14
8	構造分科会報告..... 井 上 満.....	17
9	ニ ュ ー ス.....	18

あ い さ つ

会長 池田 寿男

本年度の総会並に研究協議会は、去る6月6・7日の両日、千葉県立市川工業高等学校のお骨折により、成田市ファストシティ・ホテルにおいて開催され、多数の会員のご参集を戴き、盛会裡に終了することができました。これは市川工高の校長先生を初め、諸先生方は勿論のこと、県関係の方が尤等の行届いたご配慮によるものと、厚く御礼を申し上げます。

その時の全体会の議題として、本年は「工業教育の改善」（専門科目の最小限教育内容について）を取り上げました。これは勿論「産業教育教科調査委員会議（工業）報告」を中心として協議をいたしました。

この問題は、この9月25・26日に開催されます工業高校長会主催の「全国工業教育研究大会」においても、討議されるものと思われまふ。

又本年度の夏の研究協議会は、8月21・22日に、都立小石川工業高校において、計画部会を中心として、「建築計画実験実習」研究協議会を開催いたしました。これ又盛会裡に終了いたしましたことを、関係者の皆さんに厚く御礼申し上げます。

以上、本年度の主要行事の二つが無事に終了したことを、先づ報告いたします。

さて、本年は第2次大戦後80年、高度成長にも終止符を打ち、いよいよ経済の安定成長期に入ったと言われております。いわゆる大量生産時代が過ぎ、あらゆるものが量より質の時代に変向したようであります。

本日の新聞を見ましても、本年度の就職戦線のきびしさが予想されています。「大学は出たけれど」の時代が到来しました。それは取りもおさず、高卒へのきびしさでもあります。

或る教育雑誌をひもときましたら、「学び方を学ぶ」教科指導、心のふれあう教育、わかる授業・考える授業、創造性を育てる学習指導と言ふような表題が目につきました。これは義務教育向けの雑誌ではありましたが、我われも、もう一度研究し、会得し、実践してみねばならない題目ではないかと思ひます。

いよいよ文部省も本腰を入れて、教育課程の改訂に取り組んでおります。工業教育関係においても、「共通の基礎的な教育内容」・「必要最小限度の専門教育の内容」と言うことが論議的になっております。

このような基本的な事項の決定をみて、産振の施設・設備基準の改定も行われると思われまふ。何か、教育界に又また大きな変化が起るようであります。

いづれにしても、我われが常に心せねばならぬことは、「生徒一人ひとりの個性・適性・能力を、できるだけ完全な形で、生かし・伸すこと」、そのことではないかと思ひます。

愛知県における土木、建築科の 一括募集について

愛知県立一宮工業高等学校

杉 田 博

○はじめに

教育は個人の将来のために行なわれ、個人が職業生活をとおして社会に奉仕せんがために行なわれる。そしてまた、教育は一国の維持向上のために行なわれ、ひいては人間社会の平和共存のために行なわれる。

職業教育の重要な部分をになり、高校工業教育の向上をめざして実施された系による一括募集の目標は、①職業教育の充実（職業観の育成）、②進路指導法の改善（目的意識の向上）、③産業界への対処（複数専門化への適応）などである。ここに、愛知県における工業高校の系による一括募集の概要を紹介する。

○工業科における小学科の一括募集

県立工業高校の系による一括募集は、現在次のように実施されている。（ ）内は学級数である。

愛知工業高校：建築科(1)－土木科(1)

一宮工業高校：建築科(1)－土木科(1)

起工業高校：色染化学科(2)－繊維工学科(3)

刈谷工業高校：機械科(3)－自動車科(2)

小牧工業高校：機械科(3)－自動車科(1)、電気科(2)－情報技術科(1)

津島商工高校：色染化学科(1)－繊維工学科(2)

豊川工業高校：機械科(3)－精密機械科(1)、電気科(2)－電子工学科(2)

豊田工業高校：機械科(2)－自動車科(2)

豊橋工業高校：建築科(2)－土木科(1)

半田工業高校：建築科(1)－土木科(1)

東山工業高校：機械科(2)－電気科(2)－電子工学科(2)－自動制御科(1)－設備工業科(1)

（東山工高は設置全学科を一括募集）

名南工業高校：工業化学科(2)－化学工学科(2)

同一系の学科を設置し、一括募集を行なっている上記の学校は、県立工業高校の約75%にあたる。

これらの学校における、2学年への学科選択指導は、概ね次のように進められている。



○教育課程

学科の一括募集においては、1学年時の専門教科を共通の関連基礎科目としなければならない。このことも、この方式の一つの特徴であって、各系において事前に十分な研究がなされ、それぞれユニークな科目設定を行ない実施している。

建設系における一例を示すと次表のようである。

(一宮工・建築科)

教 科 目		1年	2年	3年	計
普 通 教 科		24	16	11	51
工	共 通 実 習(測量)	2			2
	製 図	2			2
	科 力 学	2			2
	目 建 設 一 般	2			2
業 教 科 目	建 築 実 習		2	3	5
	建 設 計 製 図		4	6	10
	建 築 計 画		3		3
	建 築 構 造		4		4
	構 造 設 計		3	2	5
	建 築 施 工			2	2
	建 築 史			2	2
	建 築 法 規			2	2
小 計		8	16	17	41

選 択 教 科	応 用 数 学			2	
	建築実習1(設計)			2	2
	建築実習2(施工)			2	
	英 語 A			2	
	建築実習3(構造)			2	2
	建築実習4(積算)			2	
小 計				4	4
教科外教育活動		2	2	2	6
計		34	34	34	102

第1学年の学習科目が土木・建築科共通のものである。製図は基礎的なものから、土木・建築製図の初歩的なものまで行ない。建設一般は、それぞれの学科の概要を理解させる目的で、土木・建築の内容を1単位づつわけて担当している。今後、基礎工業科目の充実をめざして、共通専門科目の内容、電算機実習などの検討が進められるであろう。

なお、第3学年の選択科目においては、土木、建築科の枠をはずした受講方式を準備している。

○建設系における学科選択指導

学科選択のための指導については、その一元化をはかるため、校内に選科委員会を設置している。委員会は各校共、教頭、教務課長、関係科長、担任を中心に構成され、立案、資料作成、学科決定などの作業がなされる。

建設系における、学科選択指導上の基本方針、指導基準の一例をあげると次のようである。

基本方針-①学科の決定は選科委員会で行ない、本人の能力、適性および希望にもとづいて決定する。

②学科決定に関する諸基準は選科委員会にて作成する。

③学科選択に関する直接の生徒指導は、学級担任・科長があたる。

指導基準-①進路に対する生徒および保護者の希望。

②専門技術に関する生徒の能力。

③学科適性に関する生徒の調査資料。

学科選択指導の順序はすでに述べたとおりであるが、建設系学科においては、概ね次のように行なわれている。

6月……生徒・保護者に対する主旨説明。

7月……委員会による方針・基準の確認、および指導日程の検討。

10月……生徒個票の作成 — 専門技術に関する能力、適性検査の結果および家庭環境などが記され、希望取りらんを設けて面接指導資料とする。

11月……生徒、保護者に配布する資料の作成 — 学科の内容、卒業後の進路、職務内容な

ど。

1 2月……生徒・保護者に対する説明会。

1月……個人面接による希望聴取、および委員会による結果の検討。

2月……学科選択のための指導面接。

3月……進級学科の決定および登録。

○おわりに

一括募集における最大の問題点は、生徒の能力、適性、希望にもとづく学科決定が、定員の枠に応じて適正に行なえるかどうかということであった。当初このことについて、種々の研究協議がなされたが、労を惜しまぬ学科理解への配慮、および生徒との面談による、きめこまかな進路指導により、ほとんど問題なく学科選択が行なわれている。そして、これら一連の学科選択指導がもたらした利点は、生徒が学科に対する理解を深め、目的意識を高めるとともに、将来に向って、正常な職業観を身につけるということであった。

職業教育の重要性が叫ばれている昨今、試行的に行なわれた工業科の一括募集は、学校教育の充実、向上に、一石を投じたものとして評価することができよう。

昭和49年度 事業報告書

1. 総会・研究協議会

日時 : 昭和49年6月7日～8日 参加者 140名
場所 : 愛知県名古屋市 マルエイカーネーションホール
主議題 : 「これからの工業教育」
(職業教育の改善に関する委員会審議経過をめぐって)
講師 文部省職業教育課調査官 土井正志智氏
見学会 : 明治村・犬山城

2. 講習会

日時 : 昭和49年8月7日～9日 参加者 92名
場所 : 岩手県立盛岡工業高等学校
内容 : 「建築施工実習」研究協議会

3. 理事会・委員会

理事会 : 年6回開催
委員会 : 計画・構造・製図・施工各分会とも
教材・教科・指導法などについて年3～9回開催

4. 教材委員会 : 中高層コンクリートプレハブ建築 4巻

5. 刊行物 : 建築教育ニュース 10月発行

昭和49年度 会計決算報告書

1. 収入の部 712,928円

項 目	予算額	決算額	残 額	摘 要
1 会 費	190,000	248,000	○ 58,000	㊦ 2,000 × 124 枚分
2 ワークブック印税	70,000	111,623	○ 41,623	
3 雑 収 入	25,000	95,327	○ 70,327	助成金、利子
4 繰 越 金	57,978	57,978	0	48年度よりの繰越し
5 費 助 会 補 助	200,000	200,000	0	
計	542,978	712,928	○ 169,950	

2. 支出の部 578,485円

項 目	予算額	決算額	残 額	摘 要
事 業 費	440,000	478,250	△ 38,250	
1 総 会 費	150,000	146,740	3,260	会場枚補助、講師謝礼等
2 資 料 費	80,000	125,260	△ 45,260	資料印刷(総会、ニクス)
3 講習会・研究会補助費	130,000	126,810	3,190	施工実習研究協議会
4 視察出張補助費	20,000	19,940	60	近畿工高建築連盟参加費
5 分 科 会 費	60,000	60,000	0	㊦ 15,000 × 4 部会費
運 営 費	95,000	94,985	15	
6 役 員 会 費	25,000	25,260	△ 260	会場費、茶菓代
7 交 通 通 信 費	45,000	45,140	△ 140	郵券、交通費、通信費
8 雑 費	20,000	19,585	415	事務用品、用紙代
9 事 務 手 当	5,000	5,000	0	
予 備 費	7,978	5,250	2,728	
10 予 備 費	7,978	5,250	2,728	記録写真
計	542,978	578,485	△ 35,507	

3 残 高 134,443円

4. 次年度繰越金 134,443円

昭和50年度 事業計画書

1. 総会・研究協議会

日 時 : 昭和50年6月6日～7日
 場 所 : 千葉県成田市 ファーストシティホテル会議室
 主 議 題 : 「工業教育の改善」
 (専門科目の最小限教育内容について)

2. 講習会

日 時 : 昭和50年8月21日～22日
 場 所 : 東京都を中心として
 内 容 : 「建築計画実験実習」研究協議会

3. 理事会・委員会

理事会 : 年6～8回程度開催の予定
 委員会 : 分科会(計画・構造・製図・施工)とも随時必要に応じて開催の予定
 (教材・教科・指導法などの研究)

4. 分科会委員(※ 主査)

計画部会	※佐藤(小石川工)	山田(関東第一高)	
	○山泉(神奈川工)	中村(小石川工)	
	中村(東工大付工)	志村(葦前工)	本田(川越工)
	大庭(小田原城北)	石井(葛西工)	高山(葦前工)
構造部会	※井上(墨田工)	堀越(小石川工)	古谷(田無工)
	福馬(大宮工)	佐久間(市川工)	宮島(安田学園)
	○藤井(神奈川工)		
製図部会	※五十嵐(東工大付工)	赤地(墨田工)	○片伯部(神奈川工)
	徳永(鶴見工)	岡田(川越工)	加藤(川崎市立工)
	大仁田(市川工)		
施工部会	○山室(神奈川工)	関田(熊谷工)	飯田(向の岡工)
	奥田(田無工)	小野(東京工)	佐藤(横須賀工)
	田島(大宮工)	土屋(甲府工)	小坂(峡南工)
	高橋(葛西工)		

5. 教材委員会

委員 長 五十嵐(東工大付工)
 会長・副会長
 井上(墨田工) 堀越(小石川工) 森安(田無工)
 高山(葦前工) 松本(葛西工) 宮島(安田学園)
 山田(関東第一工) 岡登(関東工) 白石(市川工)
 ○若狭(神奈川工) 加藤(川崎市立工) 岡田(川越工)

6. 工業標準テスト委員

会 長 田無工 小石川工 市川工 ○神奈川工

7. 刊行物 建築ニュース 9月発行予定

昭和50年度 会計予算書

1. 収入の部

項 目	予 算 額	摘 要	49年度決算額
1 会 費	360,000	① 3,000 × 120 校分	248,000
2 ワークブック印税	100,000		111,628
3 雑 収 入	25,000	助成金、利子	95,827
4 繰 越 金	184,443	49年度より繰越し	57,978
5 賛 助 会 補 助	70,000		200,000
計	689,443		712,928

2. 支出の部

項 目	予 算 額	摘 要	49年度決算額
事 業 費	510,000		478,250
1 総 会 費	160,000	会場校補助、講師謝礼等	146,740
2 資 料 費	180,000	資料印刷(總會、ニュース等)	125,260
3 調査研究会補助費	60,000	計画実験実習研究協議会	126,810
4 視察出張補助費	30,000	近畿工高建築連盟参加費	19,940
5 分 科 会 費	80,000	① 20,000 × 4 部会費	60,000
運 営 費	144,000		94,985
6 役 員 会 費	27,000	会場費、茶菓代	25,260
7 交 通 通 信 費	82,000	郵券、交通費、通信費	45,140
8 雑 費	25,000	事務用品、用紙代	19,585
9 事 務 手 当	10,000		5,000
予 備 費	35,443		5,250
10 予 備 費	33,443		5,250
計	689,443		578,485

3 残 高 0円

昭和50年総会・研究協議会

事務局

1. 総会

日時：昭和50年6月6日(金)

会場：ファーストシティホテル会議室

議事

ア. 昭和49年度事業報告および決算書(別紙)を審議し承認、監査報告を得る。

イ. 会長に池田会長、副会長に森安先生(都立田無工高)の留任を決める。

ウ. 会則変更、第6条の副会長若干名および第14条の年度会費3000円につき議決承認。

エ. 昭和50年度事業計画案および会計予算案(別紙)を審議し承認を得る。

2. 研究協議会(全体会)

議題「工業教育の改善」(専門科目の最小限教育内容)について、文部省関口調査官より工業全体的な面よりの講話があり、要約すると下記のようになります。

- ・現在の工業高等学校のおかれている立場から、工業教育の軽視、大学進学熱の異常な高まりの中で工業・職業教育は曲がり角に来ている。
- ・ここで、職業高校の良さを再確認したい。
- ・その意味で、教育内容(工業高校)の改善が考えられよう。工業分野21学科におけるミニマムエッセンスは何かを現在検討中で、文部省ではこのことについての試案は調査、研究中であると説明がなされた。

五十嵐先生(東工大付工)より資料に基づき建築科面より教育課程案(校長協会案)を中心とした、指導項目の最小限度(85単位)はどの位でよいかの説明があった。

以後、研究討議に入り次に関口調査官に対する質議内容を要約する。

質問 文部省試案の審議過程について。

「産業教育審議会の分科会で具体化する。なお、小・中・高の一貫性を考えている」。

質問 建築科の特色から考えるとミニマムエッセンスは不必要ではないか。

「現在の生徒は希望しないで入学して来た者もあり、それに対しあまり専門的すぎるとアレルギーをおこす。共通学習内容を他の学習内容と同様に行ってみたら如何。(工業の共通科目の新設のようにして)」。

質問 試案の意味づけとは、

「この試案が具体的にどのようになるかは未知数である。単位数については討議の必要がある」。

「工業の共通必修面が多くなる。基礎科目(共通)を過去より重視されよう」。

3. 研究協議会(分科会)

構造・施工・計画・製図の4分科会ごとに開催され、分科会の活動については別紙のとおりである。

4. 講評 文部省関口調査官

48年度の改定も完成をみたが、再び試案の検討を始めた。

分科会活動で、特に施工部会の研究プリントはよくできて、ミニマムエッセンスとしてよくできている。

新しい工業科試案の主旨説明に終始した感があるが文部省の意を汲んでいたときたい。

第2日 6月7日(土)

見学会 新東京国際空港・成田山新勝寺を見学、午前11時30分散会。

施工分科会報告

県立神奈川工高 山 室 滋

分科会報告は御存じの通り、春の総会・研究会の資料に併せて、通し№でお届けしているものと、この建築教育ニュースの2回です。

したがって今回の内容は千葉・成田会場で報告した(資料№12)以降のものです。

次の内容のものを折り込んでみました。

委員会 50年度第4回 50年6月10日(火)

会 場 神奈川工高

内 容

① 総会・分科会の報告

分科会資料№12を基にして「建築施工に関する教育科目の最小限教育内容について」の資料作成経過・協議経過、全体発表などの報告をする。とくに前理事長中江先生が施工技術についての考へ方のお話しなどがあり、有意義のうちに終了したことを委員会で報告し、協議に入る。

② 今後の活動はどうするか。

総会・研究協議会の議題は2月ごろの理事会で決まり、これに続いて分科会の議題が与えられ、それから6月に間に合うように資料を作成すべく委員会活動を実施して来ました。

そのようなわけで今年はこのあとどうやって活動するかということになり、結局、資料№12のP. 5 ④の内容を参考にして、委員会の会員が独自に、研究して来年度の資料に添付する方向で行うことになる。すなわち。

① 資料№12に添付した資料の継続研究

② 施工実習を展開するに必要な資料の収集・頒布

施工実習を展開するに際しての実施順序・準備・要領・機械・工具等の調整・準備などの問題点を集収する。

③ 「建築施工」に沿ったスライド作成、

スライドは建築学会で発行するものがあるが新しい教科書に沿い、しかも座学、実習、管理(監理)に使用し易いような編集を考慮中です。委員会には、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造などが集録してあります。

なわ張り、BM設定(通り芯XO、高さ、位置Zo)、くい位置設定、くい打(カルウエルドアースドリル)、くい頭捕え……………などの工程を、資料№12の7頁からの内容に沿って作成すれば有効な利用になると考へます。

③ その他

施工分科会では横須賀工高の川本先生の退職に際し、有志により研修・歓談の会を催しました。本分科会が第2回目の「研究協議会」を昨年盛岡工高で成功のうちに終ることの出来たことも、45年5月の単独部会、47年第1回の「研究協議会」という大役を二度に亘りお引き受け下されたことにあります。その他、数限りない本会への御指導、御助力に報いたく委員会有志が遠く、山梨・熊谷からも参加下され盛大に行いました。紙面より厚く御礼申し上げます。

お願い；

施工に関する研究課題や、要望事項などをお寄せ頂き、交流することにより、会の発展、親睦につながると考へます。御高説、御協力を神奈川県工高山室宛御寄せ下さい。

計画分科会報告

都立小石川工高 佐藤賢吉

① はじめに

昨年に続き建設業にとっても大変きびしいものがある。……民間の設備投資は、すっかり鳴りをひそめ、また財政難の自治体を中心とした公共事業なども大幅に発注が縮小され建築界は今や、設計事務所も建築施工業者もあるいは建材メーカーなども空前の経営ピンチに追い込まれている。……

こうした環境のもとで、私達工業高校建築教育の現場にも中堅技術者？として社会に送り出すべき当面の進路指導にいささか冷たい秋風を感じさせるこの頃である。

さて、計画分科会も先生方の熱心な活躍により、本年度（50年度）の夏期講習（計画実験実習の研究協議会）も多数の参加者により、暑さの中で明日への教育実践の効果を目標して、実のある研究協議会がもたれたことを非常に力強く思います。

② 分科会活動の概要

◎委員会開催 昭和49年12月8日（火）

協議事項

- ① 昭和50年度夏期講習会（建築計画実験実習研究協議会）の実施計画案について。
- ② その他、分科会の運営について。

◎委員会開催 昭和50年2月4日（土）

協議事項

- ① 建築計画実験実習研究協議会の実施細案の検討。
- ② 東日本建築教育研究会・総会における分科会の主題設定について。
- ③ その他。

◎委員会開催 昭和50年5月26日（月）

協議事項

- ① 建築計画実験実習研究協議会の実施要項および運営細案について。
- ② 総会（千葉大会）における分科会の運営について打合せ。
- ③ その他。

◎総会・研究協議会

日時：昭和50年6月6日（金）・7日（土）

会場：成田市ファーストシティホテル

分科会参加者：25名

分科会主題「建築計画の学習指導法について」

〈計画各論と実験実習〉

協議内容の概略

- ① 建築計画各論……………→設計製図との関連
- ② 建築計画実験……………→建築実習と座学
- ③ 学年配当……………→授業形態と時間数
- ④ 設備の充実……………→数量、機種の問題

時間の関係上深くは協議できなかつたが、広い分野からの発言が多かつたように思います。

◎委員会開催 昭和50年6月30日(月)

協議事項

- ① 総会(千葉大会)の報告、まとめ。
 - ② 建築計画実験実習研究協議会の準備・資料等の内容について。
- ◎委員会・講習会運営委員会開催。

日時：昭和50年8月20日(水) A.M.10:00 ~ P.M.4:00

場所：都立小石川工業高等学校

- ① 建築計画実験実習研究協議会の事前準備
 - ② 僑ミサワホーム総合研究所
電子測器(株)
リオン(株)
- }との連絡、打合せ。

☒ 夏期講習：建築計画実験実習研究協議会開催

日程概要

第1日 8月21日(木) 於：都立小石川工業高等学校

○受付 9:00~9:45

○開会あいさつ 10:00~10:30

日程説明

○実験・実習 10:30~12:30

(昼食・休憩) (12:30~13:30)

○実験・実習 13:30~15:30

○研究協議会 16:00~17:00

(全体会)

- 1. 開会のことば(事務局)
 - 2. 会長あいさつ
 - 3. 会場校長あいさつ
 - 4. 日程説明(分科会)
- 実習内容
- 有効温度の測定
 - 昼光率の測定
 - 騒音測定
 - 周波数分析
 - 気流分布の測定

第2日 8月22日(金) 於：僑ミサワホーム総合研究所

- 受 付 9:30~10:00
 ◦見学会 10:00~12:00(解散)
 ミサワホーム総合研究所
 環境試験室
 ◦講演会 講演者 ㈱ミサワホーム総合研究所
 理事長 三浦忠夫氏

<運営委員>

- ◎会場・総務 堀越：佐藤(小石川工)、高山(葦前工)
 ◎実習体当 協力：電子測器㈱、リオン㈱
 1.有効温度測定 山泉(神奈川工)
 2.昼光率の測定 大庭(小田原城北工)、本田(川越工)
 3.騒音測定 } 間宮(小石川工)、佐藤
 4.周波数分析 }
 5.気流分布の測定 志村(葦前工)

<参加者数>

- 80名
 10名(運営関係者) } 計90名

おわりに企画当初の参加予定数を大幅に超過したため、会場設営等で参加の先生方には何かと不便をおかけしたかと思います。なお運営委員の先生方および本研究協議会の開催にあたり多大の御協力・御指導いただきました株式会社ミサワホーム総合研究所、電子測器株式会社、リオン株式会社の各社に対し紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

以上で計画分科会の報告を終らせて頂きますが、会員各校のニュースなどございましたら是非お知らせ下さいますようお願いいたします。

構造分科会報告

墨田工高 井上 満

昭和50年度の構造分科会の進め方について、S. 50512に委員会に開き、S. 5066 ~ 7成田ファストシティホテルにおける議題に対する資料をどうするかについて討議し、S. 49129の会合内容(於小石川工高)とアンケートの結果を資料とすることとした。

また、今年は2ヶ月に1回位いの割合で、委員会を開くことを決めた。次に見学会適なところがあれば是非開き度いということになった。また、構造、構造設計学習指導の内容勉強会を開いたらということになった。

次に、成田での構造分科会では「構造、構造設計の教育内容の改善について」という議題をとりあげた、大体、内容をどうするか、おさえ方、指導方法、評価、具体的例について、いろいろなことが述べられた。例えば、

- ・各校共通でこれだけはふれていなければならない点、ミニマムのおさえ方。
- ・指導方法について研究すべきではないか。
- ・学年での項目、指導内容、難易度によるアプローチ。
- ・各校の実状、構造と構造設計をもって時間をへらす、教科書についての要望など……。

なお、S. 50715にS51年度の研究協議会開催についての会議を開き、実験設備、実施状況の調査することにし、現在実施中。

次に鋼材倶楽部からの協力方の申し入れであり、どのようにしてもらいか検討中です。

また、委員として神奈川工の藤井先生に加わって戴きました。

とにかく、S. 51年度に構造実験研究協議会が開けるかどうか、今、準備中ですので、会員校の皆様の協力をお願い致します。

次に、建築学会主催で、構造、構造設計教科書による研修会が行われました。

以上、簡単ですが、構造分科会の状況を報告致します。

(井上)

ニ ユ ー ス

〈大正・昭和戦前の近代建築調査への協力をお願い。〉

明治建築という言葉もなじみ深くなり、明治村の諸建築や日本銀行本店など国指定の重要文化財となり、保存の手がさしのべられております。しかし建築活動はいよいよ進み特に各都市にある大正期以降の建築で消え去りつつあるものの数はふえるばかりです。まだ歴史的評価の定まらぬというためらいもありますが、何より一刻も早く目につく建築をリスト・アップしておかねばなりません。それは単に個々の建築の保存のためでなく、そうした建築の多く存在する地域、町並みを保存するというこれからの都市造りの面からもぜひ必要なことです。今春文化財保護法が改正され町並み保存の道がひらけました。また建築学会に大正・昭和戦前建築調査小委員会が設置され活動をはじめました。法の実施に先立って大正・昭和戦前の近代建築が、全国にどのぐらい存在するか、まず実態を明らかにしなければならぬからです。これは明治建築と違い、はる大な数の建築を対象とせねばならず、存在する都市もきわめて広範囲にわたります。とても一部研究者の手に負えるものではありません。幸い工業高校に在職されます皆様には、各地の事情に詳しく正確な情報をお持ちと思います。ぜひご協力頂きたく存じます。

調査方法などにつきましては、個々に下記までご連絡頂けますれば、と存じます。

千葉県習志野市泉町1-2-1 (〒275)

日本大学生産工学部建築教室

電 0474-73-1211(内 472)

山 口 廣

〈昭和51年度、東日本建築教育研究会総会・研究協議会の開催〉

上記は、昭和51年6月上旬、山梨県下で開催されることになりました。

〈昭和51年度、実験実習研究協議会〉

来年度は[※]構造[※]が予定されています、御意見がありましたらお寄せ下さい。

あ　と　が　き

今回の「ニュース」には、愛知県下の一括(くくり)募集について貴重な報告を杉田先生にお願いしました。

皆様の御投稿をお待ちしております。執筆者の皆様方御協力有難うございました。

昭和50年9月

編集事務局

都立田無工高

都立小石川工高